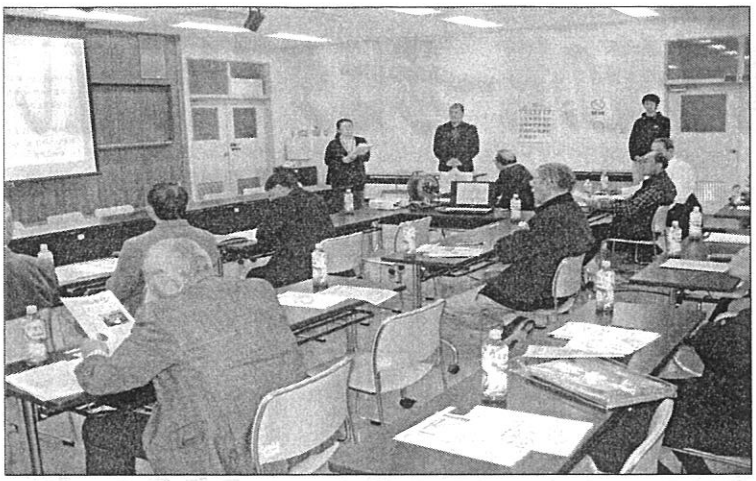
考える会通信

「秋保地区の交通　を考える会」
発行責任者
青野邦彦
仙台市太白区秋保町湯元字枇杷原11-5-1
022-304-9855

アンケート分析まとまる

地域交通整備の目安に

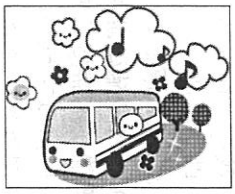
10月30日、秋保総合支所で開かれた拓桃園跡地の開発についての説明会で、考える会と秋保地域包括支援センター（以下支援センター）が、この間実施したアンケートの結果・分析を発表しました。



秋保地域包括支援センター発表の様子　総合支所（１０月３０日）

「考える会」からは「市バス利用についてのアンケート」の分析結果について、支援センターからは、2月に実施した「生活と支え合い活動」のアンケートについて、それぞれ報告を行いました。考える会からは、市バスダイヤ見直しでかなりの問題が改善できそうであること、その一方新たな公共交通機関を整備導入しなければ、将来像が描けない地区があること等が報告されました。

支援センターからは、「現在、又は将来的に自分が必要に思う手助け・支援」と「現在、又は将来的に自分ができそうな手助け・支援」が数値的にほぼ一致することが分かったと報告しました。



支援センターは、介護予防・生活支援サービスの視点から外出支援に力を注いできましたが、地域全体に関わる課題であり、一団体だけでは解決できないとの認識から「考える会」に参加しています。こうした観点から地域住民の移動に力点をおいた報告となりました。

１０年後を見据えて

「考える会」は、アンケートで84％を占める「自家用車使用」「家族友人に送ってもらう」と回答した方々の10年後の状況に思いをはせつつ、地域交通整備を考えていきます。同時にこうした福祉関連事業のみならず、教育、文化、観光、商業などさまざまな分野に貢献するものとなるべきであると考えています。

（二面に関連記事）

考える会発表の様子　総合支所（１０月３０日）

「のりあいつばめ」期間目標目標達成

次の試験運行へ弾み

仙台市が提案する「みんなでつくろう地域交通スタート支援事業」を活用した乗合交通の試験運行が、燕沢地区で行われました。この試験運行期間は、10月22日から11月16日までの約一か月間で毎週月、水、金曜日に運行されました。

10人乗りジャンボタクシーを使った「のりあいつばめ」は一日10便、地区内14ヵ所の停車場から200円の運賃を払えば誰でも利用できます。期間の運行経費は約50万円で、集計中ですが、そのうち2割を運賃で賄えれば次の試験運行に移行します。

燕沢地区交通検討会では、買い物や病院へ通うモデルプラン、市バスとの連携モデル等をまとめ、地域住民の利用促進を図った結果、期間目標利用者数460名を超える約500名が利用し、次の試験運行へ弾みをつけるかたちになりました。

仙台市の支援事業では、試験運行の回数は全部で5回までとなっており、収支率の改善がなければ打ち切りになります。通常運行までのハードルの高さに問題がありそうです。

解決策の第一歩はダイヤ見直し

路線延伸も検討課題

残る課題は空白地

市バス利用についてのアンケート集計が完了し、秋保町が抱える交通インフラの課題が鮮明になりました。

分析の手法として、893名の有効回答をそれぞれ3つのニーズとエリアに分類しました。3つのニーズとは、①通院、②買い物、③通学で、市バス利用の85％を占めていました。一方3つのエリアとは、①改善要望が高いエリア（野尻、滝原など）、②公共交通の空白エリア（森安、石神、竹ノ内など）、そして③比較的緊急性が低いエリア（湯元、湯向など）です。

①改善要望の高いエリアについては、市バスダイヤ改善要望の回答を重ねると、3本の始発と終着停留所を延長させるだけで、全体の約75％が解決することが分かりました。具体的には、①午前6時20分上ノ原始発→愛子駅行を野尻町北始発にすること、②15時36分愛子駅発白沢車庫行、および③20時12分発上ノ原行の2本を野尻北終点にする案です。これにより、朝の通学や午後の通院の帰り、部活を終えて帰宅する高校生の足を確保することが出来ます。

残る課題として、森安、石神、竹ノ内地区など公共交通空白エリアですが、地元住民や自治会が中心になり、コミュニティバスやデマンドタクシーを始め、自家用有償運送や自動運転車を含むさまざまな可能性を検討する必要がありそうです。

市との協議を

秋保町は太白区の60％以上の面積を有しており、東西17kmにわたって住民が分散しています。このため一つの手法ですべての問題を解決することは困難です。

しかも「公共交通はお金の問題」ともいわれ、限られた予算を効果的に使わねばなりません。

考える会は課題解決のため、引き続き地域と連携を強めながら、仙台市と協議をして参ります。

速報　アドバイザー派遣に道

11月17日、仙台市から「まちづくり支援専門家派遣制度」にもとづく「まちづくりアドバイザー」派遣の申請書が考える会に届きました。

19日、急きょメンバーが集まり協議し申請を行うことにしました。

アドバイザーの派遣により、今後の方向がより明確になることが期待されます。

「受けたい支援」と「できそうな支援」がほぼ同数

支援センターアンケート

支援センターがこの2月に実施した滝原、野中、東湯元3地区のアンケートによると、世帯構成の二極化（単身・高齢夫婦と多世帯同居）が顕著でした。このうち運転免許を持っていない、又は、返納者は138世帯のうち19世帯あることがわかりました。すでに交通弱者と思われる方が存在し、高齢化が進むなか買い物難民、移動困難者が増えてくることが心配されます。

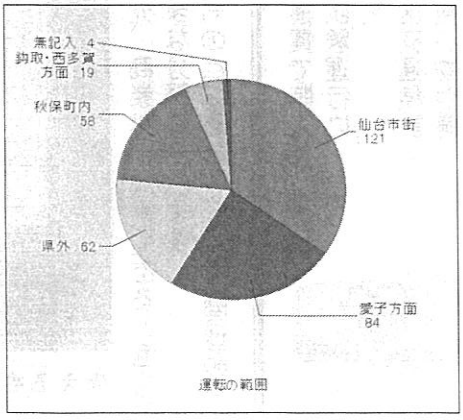
また運転免許証を持っている方の移動範囲は、秋保町内（14％）よりも仙台市街（30％）、愛子方面（21％）、鈎取・西多賀方面（19％）に出かける方が多く、生活圏が広いことが分かりました。

現在又は将来的に必要と思う手助けを尋ねた結果では、家事支援（25％）外出支援（23％）野外活動（23％）があげられたことから、多数の方がこうした不安を感じているようです。

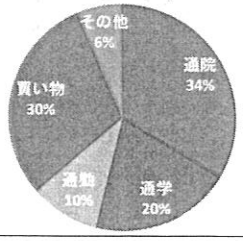
一方で、自分自身が出来そうな手助けについて尋ねたところ、外出支援（16％）野外活動・雪かき（16％）、話し相手（13％）家事支援（12％）という回答が得られました。前述した必要な手助けと内容を照らし合わせると内容がほぼ一致したことが分かります。

支援センターでは、今後とも、秋保の方が安心して地域で生活ができるように、住民の行っている地域活動や、やってみたいと考えていることを後押しできるような事業を目指します。

運転免許保持者の移動範囲
秋保地域包括支援センター調べ



浮かび上がった3種類のエリア

1、改善のニーズが高いエリア
*利用率が高く、バスの本数が半分
2、公共交通の空白エリア
*森安、石神、竹の内
3、比較的緊急性が低いエリア

市バス利用の目的